

平成 30 年度 第2回 労働衛生専門委員会 議事録

日時:平成 31 年1月 30 日(水) 15:30 - 16:50

場所:文部科学省研究交流センター3階 第5会議室

出席者:

【委員】笹原委員長(筑波大)、村井委員(JAEA/JAXA)、吉成委員(国立環境研)、木村委員(産総研)、市田委員(筑波産学連携支援センター)、照井委員(農研機構)、友常委員(コマツ)、光畑委員(筑波メディカルセンター)、大井委員(筑波大)、道喜委員(筑波大)、堀委員(筑波大)

【顧問】工藤顧問(土浦労働基準監督署)

【事務局】広瀬事務局長、金塚(記録)

(1)「第7回生活環境・職場ストレス調査」最終報告書について

配付資料 1-1 の本報告に対する各委員からのコメントを踏まえてとりまとめられた最終報告書について、各委員へ意見を求め、特に問題なしとの見解で一致。

→配付資料 1-2 の最終報告書の内容でFixし、今後公開する。

※基本的には PDF 化し、筑協 HP で公開。

参加機関配布用に冊子とし、各機関数部配布することも検討。

補足:

報告書文末のWG名簿の記載順を修正する(筑協事務局は最後に移動)

(2)(同日開催の)情報交換会について(開催状況、次回について等)

事務局から参加者アンケート(速報)を報告。

- 参加 34 名中、アンケート回収 28 件
- 情報交換会が参考になったという方は 28 件(100%)
- 分科会(チーム)人数が適切だったという方も 28 件(100%)
- 次回テーマ希望としては、メンタル不調者への対応、ハラスメント対応などが多かった。

情報交換会に参加した委員からの意見は以下のとおり。

- 大変参考になった。次回も是非参加したい。
- 属性の異なる機関の方々と交流が深まるとともに、様々な情報が伺えて有用だった。
- 機関の違いだけでなく、個々の立場や視点も様々なので、とても刺激になった。
- 分科会は1時間 20 分だったが、それでも短く感じた。(それだけ充実できた。)
- 1つの分科会だけでなく、入れ替え制としてもよい。(1つだけではもったいない。)

- 電話やメールではなく、直接対面で話し合うことで、言い合える内容等もあるので、このような場はそういった面でも意味があると感じる。
- この場で終わりではなく、人脈や情報のネットワーク化が構築していけるとよい。
- 事前に自分が参加する分科会のテーマを教えてもらえるとうれしい。(事前に話す内容や聞きたいことを整理できる、同じ職場内で事前に意見交換等をして臨める、など)

さらに、次回以降の情報交換会についても委員間で意見交換。挙げた意見は以下のとおり。

- 今回同様、委員会と同日開催がよい。(この点は全委員同意見)
 主な理由としては、
 - ・情報交換会に参加したテンションや雰囲気や委員会で臨める(活性化効果あり)。
 - ・スケジュール調整がしやすい。
 など。
- もっと時間がほしいという意見は分かるが、長ければよいというものでもないので、2時間程度の時間は適当である。2時間をどのように使うかは継続して検討した方がよい。
- 分科会の具体的な進め方も継続して検討が必要。
 以下のように様々な意見がある。
 - ・複数のテーマを入れ替え制とする。
 - ・全体で1つのテーマとし、それを各分科会で意見交換する。(共通テーマの方が全体での意見交流もしやすいメリットあり)
 - ・一度全体クローズ後に、希望者のみで自由な交流ができる場があってもよい。
 - ・何か成果(グッドプラクティス)を出すようにしてもよい。
- テーマの事前告知も意見は様々なので継続して検討が必要。
 - ・どの分科会に参加するのか、事前に周知していただいた方が準備して分科会に臨めるという意見がある一方、事前に知ってしまうと例えば同じ職場内で調整してしまうことで個々に自由な意見が言えなくなることも懸念されるので、その場で感じていることを話す方がよいという意見もある。
- 開催時期や周期も様々な意見あり。
 - ・5月頃の開催だと人事異動後であるので、新しい環境(職場)に慣れていない参加者もいるため、時期をずらした方がいいように思う。
 - ・今回参加いただいた方が次回以降も継続して参加できることも大切なので、1年に2回程度の頻度で開催できるとよい。

➔ 次回以降も情報交換会を継続開催することは全委員同意見。

次回以降を具体的にどうするかは、筑波大学関係者で検討いただく。

※なお、次回の情報交換会は、今回同様、次回委員会と同日に開催する。

(次回まで時間があまりないので、次回は大幅な変更とはせず、次々回に向けて継続検討と

する。)

(3)「第8回生活環境・職場ストレス調査」について

配付資料 3-1 の今後の調査実施に対する各委員からのコメントを踏まえて、筑波大学関係者で検討しているWGの活動結果と提案について大井委員をはじめWGメンバーの委員から説明。

- 継続の意義:筑波研究学園都市の変遷に伴う最新の調査内容で自殺予防を目的に還元徳島県海部町の「日本で最も自殺の少ない町」に倣って、「日本一自殺の少ない市」をつくば市が目指す、という方向性として。
- 予算編成:委託先見直しにより80%程度の予算規模で効率的・効果的に実施
Web化ベースで様々な委託業者を調査中。より低コストのサービスも出てきているため、具体的に検討していく。

各委員の意見は以下のとおり。

- 次回も調査は行うべき。
- WG提案の自殺予防を目的とするのは賛成。
- 自殺ゼロを目指し、つくば市へ提言し連携していけるとよい。
- 自殺予防について、具体的なフォーカス(例えば職場等)を明確にするとよい。
- つくばの取組を他自治体でも進められることを目指したい。また、その活動を他自治体とも連携していけるとよい。
- 経年的に実施することで時代ごとの相関が分かるとよい。
- できれば5年を3年程度の周期とできるとよい。
- 詳細な報告書も必要だが、ポイントをわかりやすくまとめた冊子があるとよい。
(報告書の構成としても、冒頭にまとめがあるとよい。)

➔継続してWGで検討し、次回委員会で継続審議していく。

(4)その他

・「第7回生活環境・職場ストレス調査」で得られたデータの学術利用について
筑波大学での学術利用について、大学から相談。

➔本調査で得られたデータの学術利用について、筑協幹事会及び総会で審議する。

・次回の情報交換会及び委員会の開催について

➔5月15日(水)に開催。

以上

《配付資料》

資料1-1 「第7回生活環境・職場ストレス調査」本報告書各委員コメント

資料1-2 「第7回生活環境・職場ストレス調査」最終報告書

資料2-1 「情報交換会」開催概要

資料3-1 「第7回生活環境・職場ストレス調査」結果活用及び今後のあり方について各委員コメント

資料3-2 『第8回生活環境職場ストレス調査』実施に受けたWG概要

《机上資料》

○前回(2018年7月25日)委員会議事録

○筑協「労働衛生専門委員会」委員一覧

○筑協「労働衛生専門委員会」運営要項

○「第7回生活環境・職場ストレス調査」結果報告書(速報版)

○「第7回生活環境・職場ストレス調査」調査票

○「情報交換会」分科会メンバー一覧

○「情報交換会」参加者アンケート用紙

○筑協2018、概要冊子・パンフレット